

## 東京都立高等学校入学者選抜英語検査改善検討委員会（第1回）会議要旨

1 日時 平成29年7月4日（火） 午前10時から正午まで

2 会場 都庁第二本庁舎31階 特別会議室21

3 欠席者 なし

4 協議内容（意見要旨）

### （1）英語検査の在り方について

（学習指導要領の目標との関連性）

○4技能を試験で評価する方向性は大事である。

○小学校での外国語活動が定着したことで、子供たちの話すスキルが向上している。また、中学校でも指導改善が進んでおり、スピーキングにも力を入れている。

○高校入試では、義務教育の最終段階として、学習指導要領で求められている力が身に付いているかを測ることは自然な流れである。

（各校種における指導の実態）

○小学校での外国語活動を受け、中学生がスピーキングに自信を持つようになった。中学校では日常的にスピーキングの指導やCAN-DOリストに基づくパフォーマンステストを実施している。高等学校においてもスピーキングの指導に力を入れている。高校入試でスピーキングが評価されないため、高校入試を控える3年生になると入試に対応するために、リーディング中心の授業になるような状況は避けるべきである。

（英語検査の在り方）

○入試問題は中学校の指導の充実に資するものとすべきである。英語検査の改善は、学習指導要領に基づき、きちんと授業で指導すれば、入試にも対応できるという意識を教員に持たせるとともに、授業改善が更に進むという効果も期待できる。

### （2）スピーキングテスト実施に向けた課題の整理

（テスト内容）

○スピーキングテストの評価項目を検討する必要がある。

○新学習指導要領を踏まえると、「話すこと〔発表〕」「話すこと〔やり取り〕」の両方の領域を測る必要がある。加えて「即興」で話すことも重要な要素である。

（テスト方法）

○面接での実施か、パソコンやタブレットを使用する実施かについては、今後慎重な検討が必要である。

（運営（会場、監督者等））

○筆記テストとスピーキングテストを同日実施する場合には、採点に要する人員や時間など様々な課題がある。

（運営（採点、評価方法））

○採点者がトレーニングを受けることにより、採点の妥当性や客観性を高めることは可能である。ただし、自校の生徒を採点する場合、評価にブレが出るという調査結果もある。

（実施時期）

○中学校の教育課程に影響が出ないような配慮が必要である。

○中学校での進路指導日程や私立高校入試日程への配慮が必要である。

○受検者への負担を考慮しつつ、普段の実力を測ることができる時期を検討すべきである。

（外部検定試験の活用について）

○外部検定試験の活用方法については、出題の範囲や公平性、セキュリティの担保等について、慎重に検討していく必要がある。

○自治体によっては外部検定試験の受験費用を援助している。公平性を担保するための配慮が必要である。

○複数の外部検定試験を活用する場合、評価の基準を明確にする必要がある。